

園でよくみられる感染症

病名	許可書	初期症状	潜伏期間	登園禁止期間
麻疹（はしか）	◎	発熱、食欲不振、 口中や首に発疹	10日～12日	解熱後3日経過する まで
風疹 （3日はしか）	◎	リンパ節の腫れ 発病、発疹	14日～21日	発疹が消失するまで
インフルエンザ	◎	発熱、咳、頭痛、 関節痛	1日～2日	発症翌日から5日経過 し、かつ、解熱後3日す ぎるまで
水痘（水ぼうそう）	◎	発熱、全身に栗粒大の 赤い発疹、水泡が現れ る	2～3週間	すべての発疹がかさぶ たになるまで
流行性耳下腺炎 （おたふくかぜ）	◎	発熱、耳下線（耳たぶの 下）が腫れる	14日～21日	耳下・顎下・舌下線の腫 れが出現した後5日経 過し、全身状態が良好 になるまで
咽頭結膜炎（プール熱）	◎	発熱、咽頭炎、結膜炎	5日～7日	主症状が消失後2日 経過するまで
アデノウイルス	◎	高熱、目やに、目の充 血、喉の腫れ、痛み		医師及び園が登園して もよいと認めたとき
流行性角結膜炎 （はやり目）	◎	充血、目やに リンパ節の腫れ		治癒するまで
急性出血性角結膜炎	◎	充血、目やに、痛み 目がごろごろする、 リンパ節の腫れ		
結核	◎	咳、発熱が続き呼吸が 荒くなる		医師により感染の恐れ がないと認めるまで
百日咳	◎	発熱、激しい咳、 ねばっこい痰	約2日	特有の咳が消失するま で
髄膜炎菌性髄膜炎	◎	発熱、頭痛、けいれん 嘔吐、意識障害など		医師が登園してもよい と認めたとき
腸管出血性大腸菌 （O-157 など）	◎	腹痛、嘔吐、下痢 血便、けいれん	3日～8日	

* 感染性胃腸炎 嘔吐物や下痢便で汚染された衣服については、保健所の指導により当園で洗うと二次感染を起こす可能性が高くなりますので、そのままビニール袋に入れて保護者に持ち帰って頂くことになっています。家庭で、衣類を廃棄せず洗濯する場合は、塩素系の消毒薬で消毒するか、熱水で消毒してから洗濯してください。

病名	許可書	初期症状	潜伏期間	登園禁止期間
溶連菌感染症	◎	発熱、発疹、のどの痛み いちご舌、吐き気	2日～7日	有効治療を始めてから 2日経過するまで
伝染性膿痂疹 (とびひ)	◎	赤いただれとかさぶた	5日～7日	他児への感染の恐れがない と医師が認めたとき
マイコプラズマ肺炎	◎	頑固な咳、発熱	2～3週間	発熱、咳が改善したとき
手足口病	◎	手足に小さな水疱、 口内炎	約2日	発熱がなく、食事が 摂れるようになったとき
ヘルパンギーナ	◎	発熱、のどの発疹、痛み	1日～2日	
伝染性紅斑 (リンゴ病)	◎	発熱、頬に赤い発疹	10日～20日	医師及び園が登園しても よいと認めたとき
RSウイルス感染症	◎	咳、鼻水、発熱、呼吸が 荒くなる	2日～8日	医師及び園が登園しても よいと認めたとき
ヒトメタニューモ ウイルス	◎		3日～5日	
带状疱疹	◎	皮膚の痛み、発疹、 水疱		すべてのかさぶたに なるまで
突発性発疹	◎	発病、下痢後発疹	10日	医師及び園が登園しても よいと認めたとき
ヘルペス歯肉口内炎	◎	発熱、口腔内の発疹、 痛み、摂食不能	11日～21日	口腔内の症状が改善し、 熱がなく、全身状態がよ いとき
※嘔吐下痢症・ 感染性胃腸炎 (ノロ・ロタウイルス) *感染性胃腸炎を含む	◎	嘔吐、下痢		嘔吐や下痢症状がなく なり、食事が可能で、 全身状態がよいとき
アタマジラミ		成虫、たまご(白い粒) が髪の毛の根元についてい る		

◎印がついているものは、登園許可書が必要です。

*こども園は、乳幼児が集団で生活する場です。感染症の集団発生や流行をできるだけ防ぐこ
とで子どもたちが1日快適に生活できるよう、◎印がついている感染症について、登園許可書の
提出をお願いします。「感染力のある期間」に配慮し、子どもの健康回復状況が「集団生活での園
生活が可能状態」となってからの登園であるようご配慮ください。